

8. 教職課程科目の概要

| 教科及び教科の指導法に関する科目（情報） | | | | | |
|--------------------------|----------|--------------|-----|------|---|
| 科目区分 | 科目の名称 | 配当年試験期 | 単位数 | 授業形態 | 科目の内容 |
| 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | 情報科教育法 1 | 2年 I, III | ② | M | <p>高校の共通教科「情報」・専門教科「情報」の両教科に含まれる科目群の教育を中心に、小学・中学の課程も視野に入れて情報教育の教科教育法を基礎から学び、教員として教壇に立てるまでの力を養う。このため、公教育としての情報教育の目標、教科「情報」の位置付けと、授業体系と指導方法、授業設計 (Instructional Design) 等を実践的に学ぶ。</p> <p>特に共通教科の必須科目「情報 I」の取り扱い内容を精査する。また、情報通信技術を活用した学習、ワークシートと課題レポートの提出、および授業教材の作成の機会を活用して、自らの ICT 能力を磨き、学習者にとって情報技術とは何かを考察する。</p> <p>*「情報科教育法 2」の前提科目となります。</p> |
| | 情報科教育法 2 | 3年 II, IV | ② | M | <p>「情報科教育法 1」に続いて、高校の共通教科「情報」・専門教科「情報」の両教科に含まれる科目群の教科教育法を基礎から学び、教員として教壇に立てるまでの力を養う。このため、授業体系と指導方法、授業設計 (Instructional Design)、評価方法等を、模擬授業やその被験者体験を通して、さらに実践的に学ぶ。</p> <p>受講者自らが授業案の具体的事例や授業改善の論文などを読み解き、理解する。さらに、受講者自身で授業設計を行ったうえで、授業のシミュレーションや模擬授業を行い、検討することを中心に授業を進める。これによって、受講者の情報技術、情報モラル、そして対象の教育科目への理解を高めて、教員候補としての心がまえを築く。</p> <p>※「情報科教育法 1」の単位を修得していないと履修できません。</p> |

| 教育の基礎的理解に関する科目等 | | | | | |
|-----------------|----------|--------------|-----|------|---|
| 科目区分 | 科目の名称 | 配当年試験期 | 単位数 | 授業形態 | 科目の内容 |
| 教育の基礎的理解に関する科目等 | 教育の理念と歴史 | 1年 II, IV | ② | M | <p>本科目では、教育という営みを理解するための基礎的な知識を獲得し、教育をめぐる現代的課題を多角的に捉えられるようになることを目標としている。「教育とは何か」という問いについて理念・歴史・思想の観点から考察することで、教育に対する私たちの見方や考え方が社会的・歴史的に規定されてきたことを理解するとともに、それをよりよいものにするための視点を獲得することを目指す。</p> |
| | 教職論 | 1年 I, III | ② | T | <p>本講義の目的は、教職をめざしている学生が、「教職とは何か」ということを把握すること、つまり教師という職業の概要を十分に理解することである。その際、教職の意義や教師観、教員養成の歴史、教育実習の意義と心得など、さまざまな側面から教職についての理解を深めていく。</p> |
| | 教育制度論 | 2年 II, IV | ② | T | <p>教育制度の骨格は法律で定められています。特に、公立学校の場合、条例や規則で詳細な部分まで定められています。この講座は教職課程であることから、教師の教育活動と密接に関連する学校制度や学校の組織的構造の問題をとりあげて、それらについて法令や学校管理規則などはどのように定められているのか、また学校現場では実際にどんな課題をかかえているのかを中心に理解を深めていきます。</p> |

| 教育の基礎的理解に関する科目等 | | | | | |
|-------------------------------------|-------------------|--------|-----|------|--|
| 科目区分 | 科目の名称 | 配当年試験期 | 単位数 | 授業形態 | 科目の内容 |
| 教育の基礎的理解に関する科目等 | 教育心理学 | 1年Ⅱ,Ⅳ | ② | T | 教育心理学の対象となる領域のうち、発達、学習、認知、動機づけについて解説し、学習指導および教育評価、生徒指導および教育相談について概観する。それらを通じて、今日の学習指導や評価の問題点や課題について考察していく。発達では、教育に不可欠な生徒の理解の基礎となる発達の变化を理解する。学習・認知・動機づけでは子どもの学習行動を理解するための心理学的基礎理論を習得する。学習指導、教育評価では、教授と学習の過程、教育評価の在り方について理解を深める。生徒指導と教育相談では、心理学的な観点からの生徒の支援の在り方について学ぶ。 |
| | 特別支援教育論 | 3年Ⅱ,Ⅳ | ① | M | 文部科学省（2012）の調査によると通常の学級にも6.5%の割合で特別な支援が必要な子どもたちが在籍している。そのような中で障害のある子どもの教育に対する社会的なニーズも多様化してきている。この授業では、「特殊教育」から「特別支援教育」に転換された障害児教育の理念や制度と現状を学ぶとともに、子ども一人ひとりの教育的ニーズや今日的な課題に対応できる特別支援教育の在り方について理解を深める。 |
| | 教育課程論 | 2年Ⅱ,Ⅳ | ② | T | 教育課程の歴史的な意義を確認しながら、学習指導要領を基準として、各学校において児童生徒の等の実態に応じて編成される教育課程の意義や編成方法の実際を理解するとともに、カリキュラムマネジメントの意義や重要性について学びます。 |
| 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 特別活動と総合的な学習の時間の指導 | 3年Ⅱ,Ⅳ | ② | T | 総合的な学習の時間は、各教科等での学習を総合的に活用して、実社会・実生活の課題について多角的に捉え、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す学習活動である。特別活動は、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」や「チームとしての学校」の視点を持ち、学校生活における様々な集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる教育活動である。 本授業は、上記の「総合的な学習の時間」及び「特別活動」の教育的意義を踏まえ、それぞれの目標、内容等を理解するとともに、その学習活動の指導に当たって必要となる原理、方法、計画、評価に関する知識・技能を身に付けることをねらいとしている。 |
| | 教育の方法と技術 | 2年Ⅰ,Ⅲ | ② | M | 本授業は、教育の方法及び技術に関する基礎理論を学修し、それらを基盤とした実践的な教育力を培うことを目的とします。具体的には、指導と評価の一体化の実際を授業内で展開し、様々な指導方法、評価方法、授業形態、教材等を経験的に学びます。また、インストラクショナルデザインに基づく授業設計に取り組み、ICTの効果的な活用方法を検討します。 並行して、適宜LMS上で、受講生自らの自律的学修を促します。 |
| | 生徒指導・進路指導論 | 3年Ⅰ,Ⅲ | ② | T | 学校教育は、すべての児童生徒の人格の健全な育成を図ることを目的としている。教師は、すべての教育活動を通して児童生徒の健やかな成長に寄与できるよう努力し続けなければならない。本講義では、学校の教育現場で起こっている現実（生徒指導・進路指導上の諸問題）を見据え、新学習指導要領のもとでの児童・生徒の伸長や自己実現、自立を援助するための生徒指導、キャリア教育の視点に立った進路指導についての具体的な方策、進め方について、事例分析や討論ができるだけの考え方をもちつとができるよう学修する。また、学校は組織であり、組織・チームで取り組む重要性と基本的な考え方を学ぶ。 |
| | 教育相談 | 3年Ⅱ,Ⅳ | ② | M | 学校における教育相談について理論と実践について理解を深める。まず、学校現場において教育相談を行う場合に重要な生徒理解の意義を理解する。次に、学校現場で教育相談を担う上で不可欠なカウンセリング・臨床心理学の基礎的な理論と方法を、予防的・開発的の観点から学ぶ。次に、学校で見られる児童・生徒の問題行動とその背景を概観し、教育相談とキャリアカウンセリングについてその取り組みについて理解する。 |

| 教育の基礎的理解に関する科目等 | | | | | |
|-----------------|--------|--------|-----|------|---|
| 科目区分 | 科目の名称 | 配当年試験期 | 単位数 | 授業形態 | 科目の内容 |
| 教育実践に関する科目 | 教育実習指導 | 4年 | ① | S | <p>教育実習の事前指導として、実習に必要な心構えや基礎知識を学ぶとともに、授業実践に必要なオリエンテーションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 教育実習の意義や実地実習の内容について学ぶ。 • 教育実習にあたって事前に必要な心構えなどについて学ぶ。 • 実習生の立場やマナーについて考える。 • 授業をするにあたって必要な指導案の作成方法を学習し、授業をするための必要な事項を学ぶ。 • 生徒の実態を理解するための生徒理解の方法について考える。 <p>教育実習を終えた後には、事後指導として、それぞれの実習校での体験や知見を話し合い、各自の教育実習の意味をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自主的に教育実習の反省を踏まえた報告をおこなわせて議論させ、締めくくりとして、レポートを提出する。 |
| | 教育実習 | 4年 | ② | S | <p>高等学校では2週間にわたって、それぞれの実習校において、授業見学、教壇実習、研究授業、ホームルーム指導などがおこなわれる。教育実習に行くためには、必要な単位、習得しておくべき科目などの条件を全て満たしておかなければならない。</p> |
| | 教職実践演習 | 4年 | ② | S | <p>本演習の包括的テーマを「教師の総合的指導性の獲得」とする。このテーマの下に教師の総合的指導性、すなわち授業の構成力・指導力を中心として、使命感や責任感の自覚、社会性や対人関係能力などについて考えさせるとともに、各自がこれまでの教職課程の授業や教育実習を反省することによって自分自身の弱点を抽出して、その問題を解決することによってより充実した指導性の確保をめざすことを目標とする。</p> |